

オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

カルト問題に

どう社会は対応しうるか

―オウム対策住民協議会 第八回学習会から―

四月二十三日夕、烏山地域でオウム解散を求める抗議デモが行われた。二月二十七日に教祖・麻原彰晃の死刑判決が出たにもかかわらず、逆に麻原回帰が進んでおり、その危険性はいささかも変わっていない。教団は解散すべきだとの抗議文をオウム側に手渡した。デモには三百人を超す住民が集結したが、このデモ行進の後、引き続き烏山区民センターで、対策協議会主催の第八回学習会「カルト問題にどう社会は対応しうるか」が開かれた。講師には宗教社会学専攻の櫻井義秀・北海道大学大学院文学研究科教授をお招きした。以下は櫻井義秀教授の講演の要旨です。

「都ぞ弥生」というサークルで

新入生が入ってくるというサークルで学生を勧誘する。その中に今年「都ぞ弥生」というサークルが出てきた。統一教会が名前、活動の実体を隠して学生を勧誘していた。大学はこれに対処できないでいる。大学生は大人だから自分で判断しなければいけない、そう扱うのが大学生にとって相応しい、という理由です。私はそれは考えない。学生は十分な情報に基づいて十分な判断をさせられる。私はこれには入って欲しくないと思っている。それは本人が将来いろんな活動をし、別な人を勧誘する。経済活動をする。その金で教団はいろんな活動をしていく。それが社会にとってマイナスになる。と私は判断しているからです。

オウム事件は宗教特有のことか

よく宗教は社会とぶつかるものだ、と言う人がいるが、ぶつからない宗教の方が圧倒的に多い。社会と敵対しぶつかるという

たこの社会的な影響を考えなければいけない。それを考えさせる教育の現場がいろんな意味で弱くなっているように思う。

カルトの本来の意味は

カルトとはどういう意味があつてどこから来たのか。カルトは英語で「儀式」という意味で、もともと「おかしな団体」の意味は無かった。一九六〇年から一九七〇年にかけてアメリカで新しい宗教団体がぞくぞく生まれた。インドからアメリカに移住した方がヒンズー教の一種の団体、あるいはヨーガ行者の教団、キリスト教の一派から生まれた団体、UFOを信じる団体も生まれた。若者はそれに惹かれていった。若者は新しいものが好きだ。そこに入り親との連絡を絶つた人が結構いた。そこで親たちが教団と交渉を始め、連れ戻した。しかし子どもが人柄、人格がまつたく別人のように変わっている。どうなっているんだと考え始めた。当初は教団の洗脳によるものだ、と言われているが、現在ではマインドコントロールという言葉で別に説明されている。子どもを勧誘し、人格を変えてしまう団体、奇妙な礼拝、奇妙な儀式をする団体をカルトと呼ぶようになった。ヨーロッパではセクトと呼ばれている。一九七〇年代から八〇年代、こういつた団体を監視し、団体に子どもが入ってしまった人を助ける集団がいくつも出てきた。これらの団体が、政府になんとか活動を禁止して欲しいと陳情した。その典型が統一教会。教祖の文鮮明は脱税容疑で捕まっていたが、アメリカでいろんな政治活動もしていた。

日本の統一教会の特殊性

統一教会がどのようにして社会と敵対するようになったのか、日本の法律、批判



講師 櫻井 義秀氏

するグループがどのように追い込もうとしているのか。統一教会は韓国ではなくマインナーな宗教です。日本と韓国の統一教会の一番の違いは、日本だけが霊感商法をやりました。統一教会は日本をエバ国家と言ひ、韓国をアダム国家と言ひ、人間の原罪、人間が何故墮落したのかに関して極めて特殊な教義を持つている。絵を見る

とエバの横に蛇がいて、それを食べると眼が開けて物を知ることができまよ、とエバに囁いている。統一教会は蛇が言葉をしゃべれるわけはない、本当は蛇ではなくて言葉を喋れる者がいたと説きます。創世記では当時、神さまは人間としてアダムとエバしか作つてない。統一教会は人間を守るための天使がいた。その天使が裸のエバを見てエバを誘惑した。そして禁断の木の実を食べさせたと言ひている。この「悪の血統」が人間の子孫に繋がっているのだ、そういう教義なんです。イエスは独身のまま十字架に架かつて亡くなっています。そこでイエスは「私はまた来る」という再臨の予言を残して逝つた。教祖文鮮明こそがキリストの再臨で、合同結婚式をやつて祝福を与える。これによつて無原罪の子ども、神のお子が生まれるのだ、これが教義なんです。墮落した女性エバは日本で、誘惑されたアダムが韓国だ。エバである女性はアダムである男性に仕えなければならぬ、日本がお金を稼いで、韓国の統一教会に貢がなければいけないと文鮮明は説く。

世論の変化が裁判所を動かした

統一教会はアメリカで派手な政治活動をする、韓国で土地を買う、その資金は日本の教団が担当する。これが七十年代から日本の統一教会の使命になった。当初は花を売ったり廃品回収で地味に稼いでいたが、それでは利が薄い。そこで韓国・高麗の大理石壺、韓国の土産物屋に行く、一つ五千から六千円で売っているが、これを日本で五、六十万円、人によっては五百万円で売った。これが霊感商法と呼ばれているもの。一九八七年から一九九七年の大体十年間くらいで、日本では被害総額七五〇億円、一般の方を含めると一千億円以上稼いだといわれる。霊感商法はほとんど

の裁判で違法行為と断定されました。そこで名前を隠しての勧誘が始まる。今は名前を変えて「都ぞ弥生」とかの名前で勧誘するようになった。これをカルト化という人もいます。脱会した信者が教団を訴えるようになった。

情報を出して風化させない

千歳烏山が直面しているオウム信者の居住問題。現場を知らない人が信教の自由を侵害するの、居住の自由に対して何か言うのか、と批判する。この考えも、もう少し先に行けば変わらなうと思う。つまり居住するのは自由だが、近所の方にどういふ影響を与えているのか、これは居住するオウム側が一つの責任として考えなければならぬ。例えばマンションに入る際にどういふ入り方をしたのか、普通の人が入るような隣近所にご挨拶するとか、入つた後、何か苦情がいろんな形で出たんであれば、それに誠意を持って対応するとか、直していくとか、それを十分にやつてゐるのか。最初のあいさつの中で、この事件、問題を風化させてはならない、と述べられた。メディアが報道している間は一般人は認識してくれる。しかし、それが終わると忘れられてしまう。オウムはこういうことをやつたんだよ、と教えてあげれば、そうなのかと理解する。情報を出して風化させないことが大事だ。そういう中で世論も徐々に変わつていって、信者がここに居住し活動を続けていることに異議を申し立てる。最初に戻りますが、統一教会は大学の中で公認のサークルでした。ようやく入り口の段階で学生たちに注意を与えるように変わった。ここまで変わるのに大学は四十年かかっている。時間を早めながら、少しずついろんな場面、場所、声を上げていく中で世論は変わるし、そういう世論の動向を見ながら政治とか法律も解釈を変えたり、いろいろ変わっていくのではない。いろんな団体とか地域の運動をベースにしてカルト問題を認識していく、そういう世論を作り上げていってほしいと思う。私も宗教研究、宗教界に対して、こういう問題があるんだ、われわれは真剣に考えなければいけないんだ、という形で発言しようと思つている。

「4月23日学習会 アンケート集計報告」

〔実施日 2004年4月23日(金)〕〔回収45枚〕

1. 抗議集会・学習会に参加したことがありますか？
初めて…6、2回目…4、3回目…5、4回目…3、
5回目…4、6回目…6、7回目…2、8回目…15
2. あなたのお住まいは？
北烏山…15、南烏山…16、給田…5、粕谷…0、
上祖師谷…2、上北沢…0、八幡山…7、その他…0
3. 今回の学習会について
〔良かった…33〕
◆講演の話し方が非常に聞きやすく、理解しやすかった。
(他3件)
◆統一教会の事等を聞き、尚一層今の運動をこれからも
続ける事の必要性を感じた。
◆統一教会、原理主義のおかしさ、悪徳商法への道、カ
ルトの怖さがよくわかって参考になった。
さて、子どもたちをどう守っていけば良いのか。言葉
がはっきりしていてわかりやすい講演でした。
ありがとうございました。
〔どんな事を聞いたかったですか…3〕
◆現在オウムはどんな活動をしているのか

- ◆宗教に関する事は勉強になりましたが、チョット難し
くオウム(現アレフ)に対してどうあるべきか、ど
うしたら脱会させる事が出来るのか？
- 4. 現在オウム真理教に対する解散・解体運動を行って
いる烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会
に対するご意見・ご希望がありましたらお書き下さい。
◆いつも活動ありがとうございます。これからもデモ・学
習会には参加したいと思います。
◆根気強く活動されていることに敬服致します。いつかは
参加をと思いつつ、今日になってしまいました。少しづ
つ、できるところからやらせて頂きたいと思えます。
◆烏山住民のオウムに対する関心が、余りにも無関心に思
った。年々お年寄りが多くなり、若い人にも関心をもっ
ていただきたい。
.....
今回はアンケートの回収が良くなかったにも関わらず、
初めて参加した方が6名という数字は、協議会の持続的な
活動の成果と思われれます。講演の内容は大変わかりやす
く、好評だったが参加人数が少なかった点、協議会活動の
今後への課題もみえてきた学習会でした。

広報部による埼玉県八潮市オウム施設取材報告



八潮市オウム施設



住民協議会監視小屋

八潮市にあるオウム信者の施設は、車が頻繁に行き交う
高速下の車道脇にあった。今は使用されていない、3階建
ての工場と思われる建物が道場になっている。

1999年に居住しはじめたオウム信者は、当初パソコン製
造が最盛の時に、夜中でも工場の中で仕事が行われた。建
物の前に山積された製品をみて、付近の人にも良く解った
という。最近では、信者が時々出入りしたり、数人が集まり
車で移動したりしている程度でかつての騒しさはない。し
かしセミナーが行われる8月と12月にはテレビでも報道さ

れたように、多勢の信者が出入りすると共に公安調査庁・
報道関係者などで付近は不穏な空気に包まれるということ
である。八潮市役所の担当者のお話によると.....

- ◆ 現在住民票が受理されて近隣に居住している信者は、
30~40名いる。
- ◆ 八潮市オウム真理教対策協議会は、市議会議長が会長
となり43の町会・自治会で運営されている。
- ◆ 8・12月のセミナーの時は300人体制で抗議活動を行
っている。
- ◆ オウム信者が居住してからずっと続けていた監視活動
は、昨年4月から市役所職員と町会自治会有志で、
土・日PM7:00~10:00に行っている。
など聞く事が出来た。

施設の目の前にある監視小屋には、『八潮市にオウムは
いない。平穏な市民の生活を脅かすな。』『三丸産業倉
庫(オウム居住施設)はオウム信者の巣、親の待つ故郷に
早く帰れ』『ここはオウム信者の巣、幹部にだまされる
な、不安と恐怖のオウム立ち退け』など赤字で大きく書か
れたビラが貼られていたのが印象に残った。

住民協議会活動報告

- 4月19日(月) 広報部・八潮市のオウム施設取材
- 4月22日(木) PM1:30~ 抗議デモ・学習会の広報車活動
- 4月22日(木) PM4:00~ 抗議デモ・学習会のチラシ配り
- 4月23日(金) PM1:30~ 抗議デモ・学習会の広報車活動
- 4月23日(金) PM4:00~ 抗議デモ・学習会のチラシ配り
- 4月23日(金) PM5:30~ 抗議デモ・学習会

- 5月10日(月) 広報部会「協議会ニュース」36号初校
- 5月12日(水) 事務局会議
- 5月17日(月) 広報部会「協議会ニュース」36号再校
- 5月20日(木) 実行委員会
- 5月24日(月) 「協議会ニュース」36号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。